

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 12日は、気圧の谷が日本の南へ進む。別の気圧の谷が伊豆諸島付近に顕在化する。
- 13日は、気圧の谷が日本の東へ進み、気圧の尾根が日本海から朝鮮半島付近へのびる。
- 14日から16日にかけて、低気圧がサハリン付近に留まり、大陸の高気圧が本州付近に張り出す。

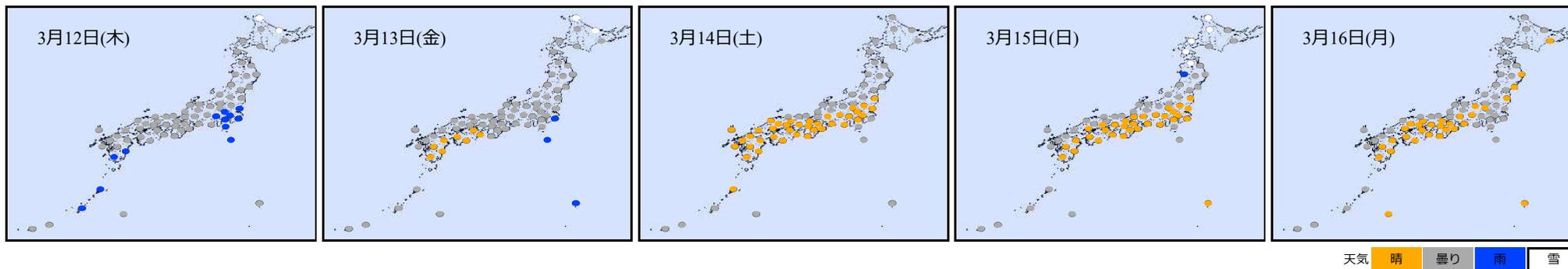
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

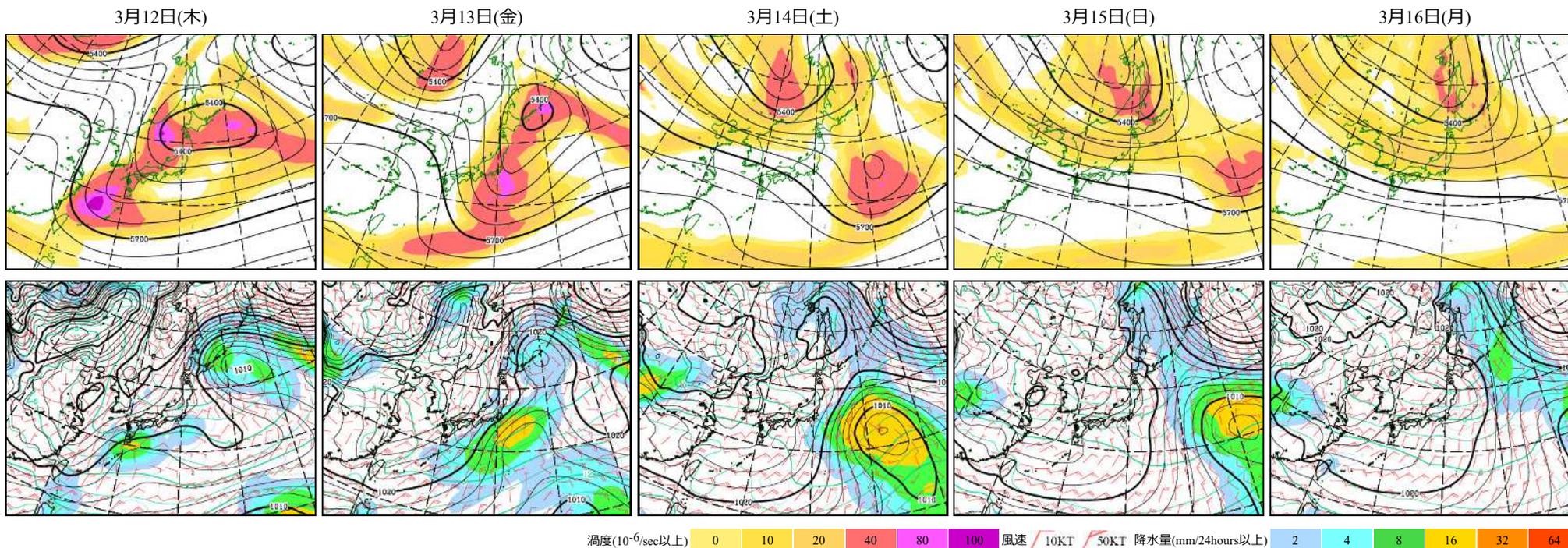
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

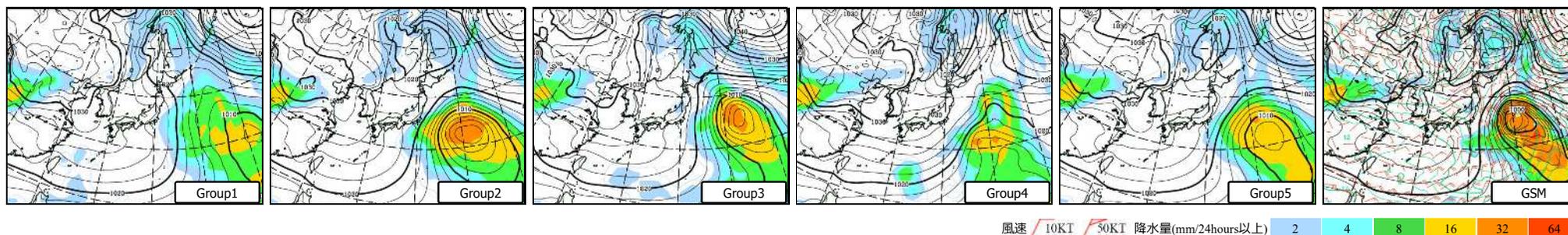


- 北日本と東日本日本海側は、雲が広がりやすく、雪または雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、12日と13日は雨または雪の降る所がある。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、12日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、12日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月14日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12日から13日にかけて、千島の東の低気圧が強くなり西に寄った。このため、降水確率ガイダンスの値は、12日から13日にかけて北海道で大きくなった。
- スプレッドは期間後半は大きく、特定高度線のばらつきも大きい。
- 13日から14日にかけて、日本の南から日本の東に低気圧が発達しながら進むことは各モデルそろっているが、15日以降、日本の東でのこの低気圧の強さや位置にはモデル間の差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。